



冬

「御所」と「御苑」

—明治ハ遠クナリニケリ—

木村 博司



絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの連環。これが息の長い活動が期待される自然保護のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
一般財団法人 国民公園協会
京都御苑 伊藤哲夫
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は再生紙を使用しています。

「降る雪や明治は遠くなりけり」は草田男の句ですが… 雪の京都御苑（清水谷家の大棟）

私は京都生まれですが、川東なので子供の頃の遊び場といえば鴨川や建仁寺などでした。御所は、今思うと公開や祭見物などハレの場としての記憶が残っています。明治生まれの祖父母からは「御所」というのはそのうち天皇陛下が選ってきける大事なことや」とよく聞かされました。こまごま御所、御所と言っています。京都では多くの人が御所と御苑を合わせて「御所」と呼んでいます。また漠然とですが、ずっと昔から今のように緑に囲まれて御所があったと思われているようで、私自身も実は公園と深く係るようになるまではそんなふうには思っていました。そこで今回は、多くの京都人たちがこを「御所」と呼んできた由縁を考えてみたいと思います。

最近では、平安京創建当時の大内裏は今の御所よりだいぶ西だったことや、幕末まで御所周辺には公家町が広がっていたことなど、かなり知られるようになってきました。ではその公家町一帯がどのようにして現在のようにな独特の空間に変貌してきたのでしょうか。

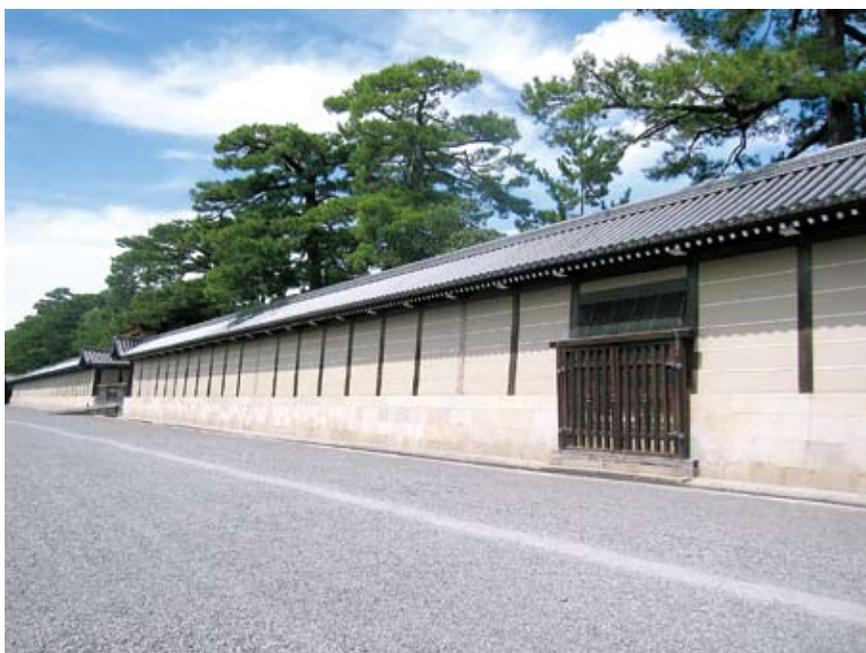
慶応四年（明治元年）から明治二年にかけて、明治天皇の御東幸、京都還幸、再東幸（遷幸）が行われました。江戸は東京、江戸城は皇城と改称され、明治二年一月には「天皇滞在中は太政官を東京に移す達」が出されました。このような遷都への動きに不安を募らす京都市民の心を鎮めようと、「京大阪は留守にしても心配ないが、関東以



遠は人心未だ定まらず御親征される。しかし今後も即位大礼は京都で行われるので遷都ではない」というような説論がなされたそうです。そして明治十年、孝明天皇十年式年祭で久方ぶりに還幸された明治天皇は、御所周辺のあまりの荒廃ぶりに深く悲しまれ、「御所保存・旧観維持の御沙汰」を下されました。

この御沙汰を受けて「大内保存事業」が始まりましたが、その主な内容は、①公家町一帯を皇宮付属地として買上げ、②公家屋敷を取り壊して苑地として整備・開放したことです。

この事業に当時の京都市民は大いに喜び、献木・献金が相次いだといわれています。また事業と改めて感じます。（国民公園協会 京都御苑参与 木村博司）



京都御所の築地堀にある道喜門

明治28年、平安遷都千百年を記念して平安神宮が創建されたが、時代祭はその祝賀行事の一環として市民の創意と多大な努力によって始まり、今もすっかり受け継がれています。（御所に向かう維新勤王隊列）

御苑と称する」と布告しました。さらに明治十六年、入浴した岩倉具視は即位礼を想定した修正を指示しました。こうして現在の京都御苑の基礎がほぼ出来あがりました。

私達は毎週日曜日、京都御苑の案内をさせていただきます。参加された皆さんに、一番印象に残った箇所をアンケートでお尋ねしたところ、一位拾翠亭、二位道喜門、三位蛤御門という結果でした。道喜門は京都御苑の案内地図にも名前が記載されており、道喜門の正門、建礼門のすぐ東にある築地堀のくぐり戸のような門が道喜門です。これらの通用門は御所の周囲に十三箇所あり穴門と呼ばれるのですが、名前が付けられているのはこの門だけです。

室町時代後期、「川端道喜」の屋敷は現在の蛤御門の近くにあり、道喜は応仁の乱後の御所の困窮した中で、毎朝天皇がお召しあがりになる「お朝物」として、塩餡に包んだお餅六個を献上いたしました。天皇は女官に「お朝はまだか」と毎日待っておられたようです。後年になって朝廷に余裕が出来てからも、明治天皇が東京に移られる直前まで、この習慣は約三百五十年間続けられました。天正五年（一五七七）信長の命を受けて、初代道喜は私財を投じて御所の築地堀を修復しています。この時にも機材搬入にこの門が用いられ、道喜出入りの門としてその歴史を伝えています。

皆さんはこのささやかな門の前で、天皇のほほえましい日常の姿を想像し、心の安らぎを感じられるのではないのでしょうか。なお、「御所」川端道喜のお店は現在左京区下鴨本通北山に移り、御子孫の方が伝統の味と製法を継承されています。（NPO法人都草 監事）

道喜門

林 寛治

催 事 案 内

■平成27年京都御苑自然教室

初心者の方を対象に自然教室を行います。冬の御苑の草花やキノコ、昆虫や鳥を観察しましょう。

冬の自然教室 “冬の御苑にふれよう”

平成27年1月25日（日）9：30～12：00

※小雨決行。当日7時時点で気象庁が大雨警報・暴風警報を発令した時は中止。

主 催 環境省京都御苑管理事務所 TEL075(211)6348
一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
TEL075(211)6364

講 師 京都自然観察学習会の先生方に指導して頂きます。

集合場所 京都御苑 乾御門前
(上京区京都御苑内西北門)

受付時間 当日 9:00～9:20

参加費 保険料100円

その他 筆記用具をご持参下さい。
手持ちのルーペ、双眼鏡、
図鑑などの観察用具や雨
具があると便利です。



「閑院宮邸跡」見学

京都御苑南西角にある「閑院宮邸跡」の収納展示室では、京都御苑の歴史や自然の資料が展示されています。新たに整備された庭園と併せてご利用ください。

収納展示室 9:00～16:00(16:30閉館) 入場無料
休館日/月曜日(月曜日が祝祭日の場合は開館)、年末年始

御苑の花暦

和名	開花期	主に見られる場所
サザンカ	11月～2月	乾御門から今出川御門に抜ける散策道周辺
ウメ	2月中旬～3月中旬	梅林
ヤブツバキ	2月～4月	近衛池周辺、母と子の森、白雲神社周辺

新年度会員募集

(平成27年1月～12月)

- 年会費 ●普通会費 1,000円以上
- 賛助会員(会社・団体) 10,000円以上

■本会員への特典

1. 本会発行物をそのつど送付します。(御苑ニュースは会費収入で発行されています。)
2. 葵祭、時代祭の招待券を進呈します。(ただし、普通会員は会費4,000円以上の方に限ります。)

■申し込み、問い合わせ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
住所 京都市上京区京都御苑3
〒602-0881 TEL075(211)6364

昆虫の越冬

谷 幸樹



越冬したホソミオツネトンボ

春から秋にかけて活動していた昆虫が冬になるとほとんど見られなくなり、昆虫にとっては寒い時期をどう過ごすかが重要なポイントです。

昆虫は卵↓幼虫↓蛹↓成虫と変態する仲間と蛹にならないで成虫になる仲間がいますが、いずれかの状態で冬眠

します。京都では十一月上旬、平均気温が十度前後になると昆虫は冬眠しかけてます。冬眠中に凍ってしまつたら死んでしまうので、低温から身を守る方法を昆虫はもっています。

その一つは、たとえば凍ったとしても細胞の中に氷ができないように細胞の外だけを凍らせるしくみをもっています。もう一つの方法は、体液や血液が凍らない場所で冬眠し、凍りにくい物質を体内に増やします。昆虫の体液には色々な物質が入っているので0度では凍らずマイナス2度位で凍りはじめます。凍りにくい物質(グリセリンやトレハロース)を体内に増やして凍

を体内に増やしていくことで凍るのを防ぎます。ナナホシテントウはマイナス20度位まで凍結しない体のつくりになっているので集団で越冬しません。京都御苑で昆虫がどのように越冬しているかを観察してみましよう。

樹木の枝や葉、樹皮の上下、落ち葉、石の下や池の中の落ち葉だまり等を観察すると昆虫の冬眠が見られます。エノキの根元の落ち葉を一枚ずつ拾って観



オオカマキリの卵塊



集団で越冬するナミテントウ



越冬の後後翅が破損したルリタテハ

察するとゴマダラチョウの幼虫が見られます。うまくいけばオオムラサキの幼虫が発見できるかも知れません。樹木の枝ではオオカマキリの卵塊や軒下ではハラビロカマキリ・チョウセンカマキリの卵塊

やモンシロチョウ・アゲハチョウの蛹がみられます。石の下や寺院の看板の下で集団越冬するナミテントウが観察できます。冬でも温度が高いときはルリタテハ・アカタテハの成虫が飛びたっている姿を見ることもできます。池の落ち葉だまりを拘うとギンヤンマ・シ

オカラトンボの幼虫が観察されます。冬でも温度が高くなり不利になるからです。観察データを集めて確かめてみましょう。このように昆虫の越冬との関係を調べてみるのも冬の楽しい自然観察になります。(京都自然観察学習会)



ギンヤンマの幼虫

見られます。また、運がよければ成虫で越冬するホソミオツネトンボも見られます。越冬する昆虫を観察できたときは東西南北の方位や温度を計測してみましよう。温度の高い南側よりも西側で多く見られます。南側は温度変化が大きく昆虫のエネルギー消費量が高くなり不利になるからです。観察データを集めて確かめてみましょう。このように昆虫の越冬との関係を調べてみるのも冬の楽しい自然観察になります。(京都自然観察学習会)

「苑内利用者の声」自然教室

吉田 豊



冬の京都御苑自然教室

の事を知りました。初めて自然教室に参加させていただいた時に植物、菌類、昆虫、鳥類などの各担当の先生方からたいへん興味深いお話をお聞きし、驚き感動いたしました。御苑内のそれらが相互に関係してうまく循環しながら自然を形成している事に小さな地球を感じました。それ以来、自然教室開催の日が待ち遠しくなっています。第2です。トンボ池には都会では見ることのない種類のトンボやカエルを見ることができ、これもまた小さな地球があります。一般公開期間もまた楽しい時間となっています。子供に誘われ行った会から、今では私達のほうが興味津々の状態になっております。

皆さんもぜひ一度自然教室やトンボ池一般公開へ足を運ばれてはいかがでしょうか？このような自然環境を都会の真ん中で体験できる所は数少ないでしょう。きっと小さな地球が感動を与えてくれることと思います。

加藤博之さんを悼む

御苑ニュースの発行人で国民公園協会京都御苑支部長だった加藤博之さんが九月に急逝されました。近衛中学、鴨沂高校の出身という生粋の京都人で、大学では森林生態を専攻されておられ、植物はもちろ

ろん野鳥や昆虫にも造詣が深く、さらに京都の新旧様々な話題にも通じ、何でも相談できる良きパートナー、かけがえのない友人でした。昨春秋、相国寺のそばに居を構えられた矢先でしたのに、愛してやまなかつた



御苑の自然や風物、これからも暖かく見守っていただきます。(協会参与 木村博司)